

「第10回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和2年9月10日（木）13時00分
都庁第一本庁舎7階 大会議室

【危機管理監】

それでは、第10回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。

本日も感染症の専門家といたしまして、東京都医師会副会長でいらっしゃいます猪口先生にご出席をいただいております。よろしくお願いいたします。

会議につきましては、お手元に配付の資料の通りに進めて参りますが、3項目目の意見交換につきましては、いつもと同じように、モニタリングの分析に関する質問等と、それから、都の対応に関しての質問、ご意見等に関して、意見交換を二つに分けて実施をいたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速ではありますが、2項目目の「感染状況・医療提供体制の分析」につきまして、猪口先生からご説明をお願いいたします。

【猪口先生】

東京都医師会の猪口でございます。

「感染状況・医療提供体制の分析」、このモニタリングシート、1枚目がありますけれども、先に今日は、いつもそうなのですけれども、別紙2（※正しくは別紙1）となっておりますモニタリングのコメントを説明させていただきたいと思っております。

今週は、お伝えしたいことがたくさんあります。要領よく話をしたいと思っておりますけれども、ぜひとも、このコメントシートは、全文お読みいただくとありがたいと思っております。

では、1、「新規陽性者数」であります。

(1) ですね。新規陽性者数の7日間平均は、前週の約183人から約149人に減少し、7月12日以来、約2ヶ月ぶりに緊急事態宣言下の最大値約167人を下回りました。

増加比も81.1%と、100%を下回る水準であるものの、80%前後で、依然として高い水準で推移しており、再び増加することへの警戒が必要な状況に変わりはありません。院内感染・施設内感染などにより、数十人規模のクラスターが発生すると、増加比が再び100%を超える恐れがあり、注意が必要です。

現在も院内感染が発生しているものの、第一波のような大規模なクラスターの発生が見られていませんが、それは、院内感染の拡大防止対策が功を奏していると考えられます。

また、PCR検査の増加による陽性者の早期発見と感染拡大防止、都民の協力、業種別ガイドラインの徹底など、様々な取組が進んでいます。引き続き、これらの対策や取組を維持する必要があります。

4に飛びます。9月1日から9月7日までの、以下「今週」ということにしますが、その間の年代別報告では、前週と同じように、20代、30代の感染が多く、40代以上、そして10代以下へと広がっておりまして、ほぼ同じ傾向が続いております。

(5)です。今週の濃厚接触者における感染経路別の割合は、全年代合計で、同居する人からの感染が37.4%と最も多く、次いで施設が14.7%、そして、職場、会食、接待を伴う飲食店は5.7%の順でありました。前週と比べ、施設での感染の割合が増加しております。

年代別で見ると、今週の濃厚接触者における感染経路別の割合は、10代以下では、同居する人からの感染が54.4%と最も多く、次いで保育園・学校等の教育施設での感染が27.9%でした。同居する人からの感染は、20代及び30代の30.3%に対し、40代から70代は42.8%でした。80代以上では、施設での感染が74.2%と最も多く、次いで同居する人からの感染が12.9%でした。

今週も、同居する家族からの感染が多数報告されています。一旦、家族内に新型コロナウイルスが持ち込まれますと、感染を防ぐことは困難であり、まずは、家庭内に持ち込まないよう、家族以外との交流における基本的な感染防止対策の徹底が必要であります。また、特に高齢者の同居家族への日常的な感染防止対策が重要であると申し添えます。

家族以外では、友人との会食、保育園における感染や、接待を伴う飲食店、介護老人保健施設、高等学校等におけるクラスター発生例が報告されております。今週は、会食により感染した41人が報告されており、うち37人で会食の同席者による、同席者の中に陽性者がいたと報告されています。少人数であっても、人と人が、密に接触する環境で、マスクを外して、会話や飲食を行うと、感染のリスクが高まります。このような環境を避け、基本的な感染防止対策を徹底することが重要であります。

このところは、飲みに行くと言ったときに、「お前となら大丈夫だろう」と言って、そういうメンバーで行ったとしても、むしろ、そのお店の中で、他のお客さんだとか、それから、従業員さんというイメージよりは、どうやら、調べてみると、その向かい合って食事をしている者から移っている可能性が高いのではないかと、はっきりわかっているわけではないのですが、その可能性が示唆されるような数字であるのではないかなと私は考察をいたします。

特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等、重症化リスクの高い施設において、無症状や症状の乏しい職員を発端とした感染が見られており、引き続き、高齢者施設と医療施設における施設内感染等への警戒と検査体制の拡充が必要であります。

今週の新規陽性者は1,032人で、前週の1,389人と比較すると減少しております。

保健所別届出数では、世田谷区は102人、次いで港区、足立区、大田区、渋谷区が55人の順でありました。島しょでも5人の感染者が報告されております。新宿区が5位以内から外れて、特徴的かなと思います。

②です。「#7119における発熱等相談件数」、(2)ですね。#7119の7日間平均は57.6件であり、前週の63.1件から減少傾向にあります。

③「新規陽性者における接触歴等不明者数・増加比」であります。

(1)、改めてですけれども、新規陽性者における接触歴等不明者数は、感染の広がりを反映する指標であるだけでなく、接触歴等不明な新規陽性者が、陽性判明前に潜在するクラスターを形成している可能性がありますので、モニタリングしております。

(2)、接触歴等不明者数は7日間平均で82人と、前週の108人と比較すると減少しました。しかし、依然高水準であるため、今後の動向を注視する必要があります。接触歴を調査する保健所への支援が引き続き求められます。

(3)、新規陽性者における接触歴等不明者の、9月9日時点の増加比は75.8%で、前週の79.4%に引き続き100%未満でありました。しかし、今後も増加に転じることへの警戒が必要です。

感染経路不明な者の割合は、9月9日時点で55.3%であり、9月2日の時点の59.2%から減少しております。

米印のところに書いてありますように、50%を超えておりますので、国の指標については、ステージⅢということになります。

モニタリングシート、最初の紙に戻りますけれども、矢印は四つとも全部下向きになっております。

総括コメントは、「赤」から「橙」に変わりました。「感染の再拡大に警戒が必要であると思われる」、「新規陽性者数の減少速度は未だ緩やかである。感染者数が再び増加することへの警戒が必要である。」ということです。

要するに、数そのものが減ってきて、それから、その増加率っていうのでしょうか。増加率、逆の言い方をすると減少率ですけれども、それも安定してずっと下がっていると、安定水準でありますので、こういう「橙」としましたが、数も率も、両方ともぎりぎりです。

何かありましたら一気に増えるという、すぐ「赤」に戻る水準ではあるけれども、その両方が水準を切ったということで、「橙」とさせていただきます。

では、「医療提供体制」のお話をさせていただきます。

4ですね。「検査の陽性率（PCR・抗原）」、(2)に入ります。PCR検査の陽性率は、9月9日時点で3.5%、9月2日の3.8%と比較して、ほぼ横ばいでありました。

(4)、新規陽性者数が減少傾向にある中、今後、経済活動が活発になると、感染機会が増加する恐れがあります。

感染リスクが高い地域や集団及び高齢者施設などに対して、感染拡大抑止の観点から、無症状者も含めた集中的なPCR検査を行うなど、戦略を検討する必要があります。

(5)です。次のインフルエンザ流行期における発熱患者の増加を想定されていますが、発熱等の症状がある患者に対して、季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症を臨床的に鑑別することは困難です。このため、次のインフルエンザ流行期に備え、東京の実情に応じた発熱患者の相談・検査・診療のフローを作成することと、検査体制の強化が大きな課題となります。

⑤「救急医療の東京ルールの適用件数」です。

東京ルールの適用件数は、8月27日以降、45件前後で推移しております。

今週の7日間平均の件数は37.9件で、前週の47.3件からは減少しました。

⑥「入院患者数」です。

入院患者数は、9月1日に緊急事態宣言下の最大値1,413人を下回って以降、1,200人台まで減少したものの、依然として高い水準であり、再び増加することへの警戒が必要であります。

(3)です。入院調整本部の対応件数のうち、約9割以上が無症状の陽性及び軽症者であります。合併症を有する患者が多くいます。

(6)に飛びます。今週の新規陽性者1,032人のうち、無症状の陽性者が18.6%を占めていました。宿泊療養施設は、3,044室を確保していますが、9月9日の宿泊療養施設の利用者は189人、自宅療養者は403人でありました。

7、入院、宿泊及び自宅療養者の状況を把握・分析し、次のインフルエンザ流行期における感染者の再増加への備えを具体的に検討する必要があります。

8、宿泊療養施設の一部で、英語による対応や、ITを活用し、オンライン健康観察を行うなど、医療支援にあたる医師等の負担軽減対策を進めています。また、自宅療養者についても、ITを活用した健康観察システムの導入を進め、保健所業務を支援する体制を整えています。

保健所から入院調整本部への調整依頼件数は、1日40件程度で推移していますが、その内訳としては、受入先の調整が特に厳しい緊急性の高い重症患者や合併症を有する患者の依頼件数の割合が増加しています。特に土日祝祭日は、受入可能な病床数が少ない状況が続く、調整が難航しています。

10、入院調整の結果、入院先医療機関が決定した後、症状の改善や患者の希望でキャンセルする事例が1割程度発生しております。

最後、⑦「重症患者数」です。

東京都は、その時点で、人工呼吸器又はECMOを使用している患者数を重症患者数として、医療提供体制の指標としてモニタリングしていますが、その東京基準の重症患者数は、前週の29人から9月9日には24人まで減少しました。

今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は5人であり、人工呼吸器から離脱した患者は8人、人工呼吸器使用中に死亡した患者は3人でした。9月9日の時点で、人工呼吸器を装着している患者が24人で、うち5人の患者がECMOを使用しています。

9月9日時点の重症患者数は24人で、年代別内訳は、40代が2人、50代・60代が15人、70代以上が7人であり、性別は、男性21人、女性3人でした。

5ですね。新規陽性者数が高い水準ながらも減少している中、重症患者数も増減を繰り返しながら減少傾向が見られます。しかし、新規陽性者における中高齢者が占める割合が高くなっていることから、今後も重症患者数の推移に警戒が必要であります。

6、今週報告された死亡者数は9人であり、そのうち80代以上の死亡者が6人でありました。前々週、前週の11人とほぼ同数の死亡者数であり、引き続き注視する必要があります。

ということで、またモニタリングシートに戻っていただきまして、矢印は、PCR・抗原の検査の陽性率が横向きでありますけれども、それ以外は下向きになっているということです。

ただ、医療機関の負担が長期化している中、重症患者数は、それほど減っておりませんし、今後の推移に警戒が必要な状況が続いております。

ということで、コメントは「橙色」、ステージ変わりませんで、「体制強化が必要であると思われる」ということでもあります。

今週のモニタリングでは、「橙」と「橙」ということになりました。以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは、次に意見交換に移りたいと思います。

まず、ただいまご説明のありました「感染状況・医療提供体制の分析」につきまして、何かご質問、ご意見等ある方いらっしゃいましたら、お願いいたします。

よろしいですか。

知事から何かございますか。

【都知事】

現実に医療現場の状況をどのような、この変化って言いましょうか、あまり数字的には重症者の数、少し減ってはいますけれども、その辺の状況をちょっとお知らせいただければ。

【猪口先生】

確かに、数自体は減ってきているように見えるのですがけれども、どの病院においても、患者さんがいなくなっているわけではない。

必ず、その割合に応じたような形の減少をしておりますので、それぞれの病院は、やはり新型コロナウイルス感染症対策ということで気を遣って、ずっといます。労力においては、一つも楽にはなっておりません。

ですから、医療提供体制は、ここに書いてある通り、負担が長期化している。そして、その疲労は、確実に溜まってきていると思います。

あと、申し上げづらいことではあるのですがけれども、重症患者数の減少が、死亡退院という、そういう方たちもおられるということは、ちょっとやっぱり記憶に留めていただきたいなと思います。

【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは、意見交換の後段、都の対応についてに移ります。

何かご意見、ご質問等ある方いらっしゃいますか。

よろしいですか。

それでは会議のまとめといたしまして、知事からご発言をお願いいたします。

【都知事】

第10回になりますコロナウイルス感染症モニタリング会議でございます。

猪口先生には、もう毎回ご出席いただきありがとうございます。

そして、先生方から「感染状況」と「医療提供体制」についての分析をお願いしました。

「感染状況」は、最高レベルの「赤色」から「オレンジ色」へと一段階下がる3段階目となり、「感染の再拡大に警戒が必要であると思われる」との総括コメントをいただきました。

「医療提供体制」ですが、こちらは引き続き3段階目の「体制強化が必要であると思われる」との総括コメントをいただいております。

そして、「感染状況」につきましての内容ですが、新規陽性者数の減少速度は未だ緩やかであると、そして、感染者数が再び増加することへの警戒が必要であること。

そして、島しょでも、複数の感染者が発生していて、都内全域に感染が拡大をしているということ。

感染経路については、80代以上を除く全年代で、家庭内での感染が最多であること。

80代以上では、施設での感染が最多であること。

次に、重症患者数ですが、増減を繰り返しながら減少傾向である。

そして、年代別では50代以上が多数であることをご指摘をいただきました。

そして、以上のご指摘を踏まえまして、ここで改めて都民の皆様、事業者の皆様へのお願いでございます。

都民の皆様方には、引き続き、家族以外との交流におけます感染防止対策を徹底していただきたい。そして、家庭内へ感染を持ち込まないようにご注意をいただきたい。

そして、外出先におきましては、手洗い・消毒などの基本的な対策を徹底いたしていただきたい。

それから、会食においては、長時間の飲食・飲酒、大声や至近距離での会話をお控えください。

これがお願いでございます。

それから、高齢の方々ですが、外出なさる際は、3密を徹底して回避していただきたい。

それから、同居家族にご高齢の方がおられる際は、帰宅時の手洗い・消毒、日用品を別にするなど、感染の防止対策を万全にしていきたい。

それから、事業者へのメッセージであります。

ガイドラインの遵守、ステッカーの掲示につきましては、改めて徹底をお願いいたします。利用者の皆様にも、お店の感染防止対策にご協力いただきますよう、お願いをいたします。次に、「医療提供体制」であります。

先生方のコメントを踏まえまして、引き続き、体制の強化を図って参ります。

患者受入れ体制であります。2,800床の確実な確保に向けまして、都内医療機関に依頼しております。現在は、2,600床、内訳は、重症用が150床、中等症用が2,450床となっております。

宿泊療養施設であります。こちらも更なる活用を進めて参ります。

また、次のインフルエンザ流行期に備えました対策ですが、第3回定例会に提出いたします補正予算案におきまして、高齢者等の季節性インフルエンザワクチン接種への支援を盛り込んでおります。

都民、事業者の皆様方におかれましては、これまでのご協力をいただいております。改めて感謝を申し上げます。

そして、現在の状況でございますが、新規陽性者数は減少傾向である。感染が急拡大した7月中旬以前の状況にまでなつたと。また、全国の感染者数も減少している。

一方で、先生方からは、感染の再拡大に警戒が必要であるとのご意見もいただいております。

感染拡大防止と経済社会活動の両立に向けまして、引き続き、皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げる次第であります。以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第10回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。

ご出席ありがとうございました。